

原産年次大会

テーマの変遷

日本原子力産業協会という原子力関係の企業や団体が会員になっている一般社団法人があります。そこが毎年4月に年次大会を開いていて、今年2018年も4月9日、10日に開催されました。毎回「基調テーマ」というのがありますが、それを並べてみると。。。

(参考資料①)

2011年4月 第44回
中止

2012年4月 第45回

再生への道筋を問う

— Think Globally, Act Locally

福島第一原子力発電所の事故から1年を経過した時点で判明している様々な事実を俯瞰し、原子力産業界として、事故とその影響を検証・総括しつつ、事故から何を学び取り、再生に向けてどのように取り組んでいくべきか、各国関係者の知恵と英知を集め深く考察する場をめざす。

2013年4月 第46回

原子力ゼロ？

— 世界が突きつける日本の責務

日本にとっての原子力のあり方や国際社会における日本としての課題について考える場となるとともに、原子力の再生に向けた大会となることをめざした。

2014年4月 第47回

信頼回復に向けた決意

国民の信頼回復を目指し、福島復興に向けた課題や世界における原子力の役割を認識し、産業界の決意につなげる議論を交わす場とした。

2015年4月 第48回

なぜ原子力か？

海外の経験と知見に学びつつ、日本と世界において原子力が果たす役割を考える機会とともに、原子力事故から4年が経過した福島復興に向けて前向きに取り組む地元の人々の姿を伝え、産業界や消費地が復興のために出来ることを、福島の将来を担う世代とともに考える場として開催した。

2016年4月 第49回

ENERGY FOR US ー未来へつなぐ原子力

原子力の価値を再確認し、その価値を国民と共有するにはどうしたら良いか、世界的なエネルギー安全保障や地球温暖化問題などの視点も踏まえながら考えるとともに、福島第一原子力発電所事故から5年が経過した福島県浜通り地域の現状と住民の取り組みについて知り、福島の将来のために成すべきことを考える機会として開催した。

2017年4月 第50回

いま、過去を未来へ結ぶ

半世紀の歴史を振り返り、現在の原子力を取り巻く課題を直視した上で、世界そして日本の将来のために原子力界が課題をどのように克服すべきかを議論し、また、将来世代が夢を持って取り組んでいける原子力とはどうあるべきか、未来を展望し夢や期待を語る大会として開催した。

2018年4月 第51回

原子力が未来を担うエネルギーたり得るには

わが国のエネルギー基本計画が見直される中で、原子力が有するポテンシャルを最大限発揮し、将来にわたってエネルギーの安定供給や地球温暖化防止への貢献を果たし、社会・経済の安定・発展に最大限寄与し続けるには何が必要かについて考える機会とします。

参考資料
①日本原子力産業協会HP「原産年次大会」各回の『大会の概要』
<http://www.jaif.or.jp/understanding/>

最後に一言

2014年頃までは「再生」「信頼回復」と、少し立ち止まった感じでしたが、2015年頃からは「これからも原子力！」と、突っ走り始めたようです。原発を『重要なベースロード電源』としたエネルギー基本計画が閣議決定されたのが2014年4月なので、これが背中を押したのかもしれませんが。次の基本計画は今年出ますので、この流れを止めないと。